

全国から寄せられた
千羽鶴の再利用

問 平成24年9月議会で一般質問を行った千羽鶴の再利用については、民間団体や市民を巻き込んだ取り組みにするべきだと考えているが、現在までの取り組みや対応について伺いたい。

答 千羽鶴の再利用を検討する過程で市内業者から社会貢献の意味合いも含め再利用の申し出があり、現在試作品が製作されている。解体選別作業の間やコスト等の課題はあるものの、再利用の継続につなげたいとの観点から、市職員の名刺に再利用するとともに、平和宣言や要人への招請状への活用などにも積極的に対応したいと考えている。また、長崎平和推進協会にも、活用の検討をお願いしたところである。再利用の取り組みについては、市が率先して活用することで、民間にも取り組みが波及することを期待したい。



▲千羽鶴を再利用して作った名刺や便箋

MICE施設

問 MICE施設の整備可能性調査報告書におけるエリアの考え方や市民説明会の内容について伺いたい。

答 国際的なMICE都市となるための条件の中には、施設機能がシンプルで使い勝手がよく、かつ、多様な形態に対応可能であることなどに加え、飲食、宿泊、ショッピング、エンターテインメント等のサービスがエリア内で提供できることなどが挙げられていることから、立地として長崎駅西側の用地が最適地であると考えている。また、コンパクトなまちである本市では、まち全体で受け入れることができ、経済波及効果は、長崎駅周辺のみでなく市域や県域に広く及んでいくと考えている。なお、市民説明会においては施設整備費まで入れた収支の記載や経済波及効果も含め、わかりやすい資料を作成し示したい。

世界遺産候補の保存整備のための基金の設立

問 世界遺産候補に推薦されている明治日本の産業革命遺産のうち、端島(通称、軍艦島)の整備には、5つの整備パターンがあり、概算で11億円から158億円が必要であると試算されている。公的資金だけに頼らない「遺産を

後世へ受け継ぐための基金」を設立する考えはないか伺いたい。

答 風化が進んでいる端島を将来にわたり保全していくためには、多額の費用がかかることが想定されることから、広く資金を募り基金を設立することとは、本市の財政負担の軽減になるだけでなく、世界遺産の将来にわたる保全に大変意義があると考えている。そのため、基金の使途や目標額など具体的な内容を整理し、基金の設置時期について早急に検討を進めていきたい。



▲世界遺産推進特別委員会での端島の現地調査の様子

長崎がんばらばらば国体・大会に向けた機運の醸成

問 国体開催までいよいよ4カ月を切ったが、市民総参加による大会の成功を目指すために、今後、市民の機運醸成について、どのように取り組んでいくのか伺いたい。

答 炬火の採火式や集火式、かもめ広場での市民参加型イベント、運営ボランティア研修会やおもてなし講習会、環境美化活動等を行うとともに、競技普及や競技会の魅力向上を図り、多くの人に来場してもらえよう競技観戦の促進に努める。そのほか、パブリックビューイング、観光丸による競技観戦も計画している。さらに、東京オリピックに向けた取り組みとして、国体で実施されない競技の模範試合等が計画されており、その周知にも努めていく。今後とも、国体・大会の開催に向け、さまざまな機会を捉え、機運の醸成を図っていく。

明政クラブ

現在の公会計から見た大型事業

問 MICE施設に関わる支出については、土地取得費、建物建設費、借入金の金利、職員派遣の人員費、土壌汚染除去費、液状化対策費など含まれていないコストが多数あるが、民間で用いる複式簿記によりフルコストで計算した場合の年間の収支を伺いたい。

答 MICE施設の運営費は、公設民営方式を検討する中で、民営の部分の収支は年間2千700万円の黒字と見込んでいる。なお、施設の減価償却費(減価償却期間を50年間と想定)や将